

【暫定版】『聞き書きマップ』を使った安全点検まちあるきの手引き

2014/08/14 現在

この手引き書では、『聞き書きマップ』を使った安全点検まちあるきなどを行うために、

- ・どんなものを用意すればよいか
- ・実際のまちあるきの前に、どんな準備をすればよいか
- ・まちあるきをしながら、どのようなことをするのか
- ・まちあるきの記録を、どのように『聞き書きマップ』に取り込むか

について説明します。

1. 『聞き書きマップ』を使うための「3つの小道具」

安全点検まちあるきなどを行うとき、現地に持って行くのは、つぎの「3つの小道具」だけです。

1. GPS 受信機
2. IC レコーダー
3. デジタルカメラ

(1) GPS 受信機

GPS 受信機とは、人工衛星から送られる電波を受信して、受信機を持っている人が今いる位置（緯度・経度）を測定する装置のことです。

現在の『聞き書きマップ』（バージョン 2.1.3）では、↓この機種（GT-740FL、または同等品）を使えば、データを『聞き書きマップ』に直接取り込めるので、お勧めです。



『聞き書きマップ』を使ってまちあるき記録を作るために、とくべつな機械や専門知識は必要ありません。また、『聞き書きマップ』をインストールしたパソコンなどを、いっしょに持って歩く必要もありません。『聞き書きマップ』は、まちあるきが終わって帰ってきた後に、お茶でも飲みながら、現地で声として録音した言葉を「聞き書き」して、その要点を、写真や位置情報とセットになった文字情報として記録するために使うものなのです。

(2) IC レコーダー

IC レコーダーとは、音声を直接メモリーに録音する、デジタル式の録音機のことです。『聞き書きマップ』で使うには、高音質の録音は必要ないので、会議録音用の安い機種で十分です。

最近では、通信販売サイトなどで、↓このような、USB メモリー型の IC レコーダーが売られています。価格が安い（2,000 円前後）のと、操作が簡単なので、お勧めです。



(3) デジタルカメラ

デジタルカメラは、よほどのオモチャカメラでなければ、どんな機種でも問題ありません。写真のデータが「.jpg 形式」で保存されるものなら、まず大丈夫です。みなさんがふだんお使いのデジカメを、そのまま使っていただくのでいいと思います。

ただ、カメラに付いてくる、写真取り込み用のパソコンソフトに、カメラの時刻合わせ機能があると、とても便利です。『聞き書きマップ』で、写真を正しい撮影位置に表示するには、カメラの時計の時刻合わせが正確にできている必要があるからです。

必ず必要なものではありませんが、下図のような、「USB ハブ付きカードリーダー」があると、まちあるきのデータを『聞き書きマップ』に読み込むときに便利です。



2. 出発の前日までに行う準備

まちあるきに出かける前日までに、つぎのことを忘れずにやっておきましょう。

(1) 電池の交換／充電

せっかく、まちあるきの現場へ「3つの小道具」を持って行っても、まちあるきの最中に、どれか一つが「バッテリー切れ」になったら、たいへんです。とくに、最近のデジタルカメラやGPS受信機は、充電式の電池を使うものが多いので、まちあるきの当日になって「そうだ、充電しなくちゃ！」と気づいても、もう手遅れだったりします。

ですから、前日までに必ず、「3つの小道具」それぞれの充電（または電池の交換）を、すませておきましょう。

(2) メモリーの残量の確認

まちあるきの最中に、「メモリーが一杯です。これ以上記録できません。」という表示が出てがっかりする、という失敗も、意外に多いものです。また、出発直前にメモリーの残量が心配になって、あわてて過去のデータを消去したりすると、パソコンなどにまだ保存していなかった大切なデータを、うっかり消してしまった！などということが起こりがちです。

ですから、メモリーの残量の確認も、なるべく前日までに行って、できれば、そのときメモリーに入っていたデータをすべてパソコンなどに取り込んだうえで、「3つの小道具」それぞれの「データをすべて消去」しておくのがお勧めです。

(3) デジタルカメラの時刻合わせ

これは、『聞き書きマップ』を使うために、とくに大切な準備です。

『聞き書きマップ』では、デジタルカメラの写真に記録された撮影時刻の情報を使って、「その時刻にGPS受信機が記録した地点」を、写真の撮影地点だと判定します。ですから、デジタルカメラの内蔵時計の時刻合わせが正しくできていないと、誤った時刻に基づいて、誤った場所を撮影地点だと誤判定してしまうのです。

さいわい、最近のデジタルカメラには、たいいてい写真をパソコンに取り込むプログラムが添付されていて、このプログラムに、デジタルカメラの時刻をパソコンと同期する機能があることも多くなっています。この機能を使ってカメラの時刻合わせをするのが、いちばん簡単で確実な方法です。

そのようなプログラムがないときには、携帯電話の時刻表示や、テレビの時報などを使って、できるだけ正確にデジタルカメラの時刻合わせをしてください。

なお、ICレコーダーについては、必ずしも時刻合わせをしておく必要はありません。ICレコーダーによる録音の時刻合わせは、まちあるきを始めるときに、時刻合わせの目印になる言葉や音を録音することで行います。これについては、このあとで説明します。

2. まちあるきを始めるときに行う準備

以下のことを行います。できるだけ、この順序で行うとスムーズです。

(1) IC レコーダーで録音を始める

このとき、録音の最初の部分に、あとで、音声と写真との時刻合わせをするための「目印」になる言葉や音を、録音するようにします。

携帯電話などで、「117」番の時報サービスに電話し、その音声を鳴らしながら IC レコーダーの録音スイッチを入れれば、録音の一番初めにその音声が記録されるので、たいへん便利です。

(2) GPS 受信機のスイッチを入れる

建物の外に出て、空がなるべく広く見えるところで、GPS 受信機のスイッチを入れます。

受信機が GPS の人工衛星からの電波を捉えるまで、数分程度かかるのがふつうです。電波が正しく受信できないうちに歩き出すと、GPS のデータが取れなくなることがあるので、注意が必要です。

電波が正しく受信できたら、GPS 受信機が、ランプの色の変化や点滅など（表示のしかたは、機種によって異なります）で知らせてくれるので、それまで待ちます。

3. まちあるきの現場で行うこと

「シャッターを切りながら、つぶやく」

『聞き書きマップ』を使うために、まちあるきの現場で行うことは、唯一これだけです。

というより、自分たち自身の経験から、まちあるきの「現場」で、これ以上複雑なことを「やってはいけない」というのが、私たちの強い意見です。

ですから、通常のまちあるきで、気づいたことを「メモ書きする」かわりに、同じことを声で「つぶやく」、それだけです。

それを、デジカメのシャッターを切りながら行うことで、写真の撮影時刻から、そのとき「つぶやいた」内容を、すぐに頭出しして「聞き書き」できるようになるわけです。

シャッターを切るタイミングと、声で「つぶやく」タイミングとが、多少ずれても、まったく心配ありません。『聞き書きマップ』には、「3秒戻す」「3秒進める」ボタンがあるので、写真の撮影時刻を中心に、その前後の録音を、ちょっとずつ前に戻したり後に進めたりしながら探し出したり、聞き漏らした内容を聴き直したりすることが、とても簡単にできるのです。

4. まちあるきから戻ったときに行うこと

(1) GPS 受信機のスイッチを切る

(2) IC レコーダーのスイッチを切る

当たり前のように、意外に「うっかり」忘れることもあるものです。確実にスイッチを切り、電源ランプが消えたのを確認しましょう！

5. まちあるきのデータを『聞き書きマップ』に取り込む

以下の手順で、データを『聞き書きマップ』に取り込みます。

(1) データを読み込む準備をする

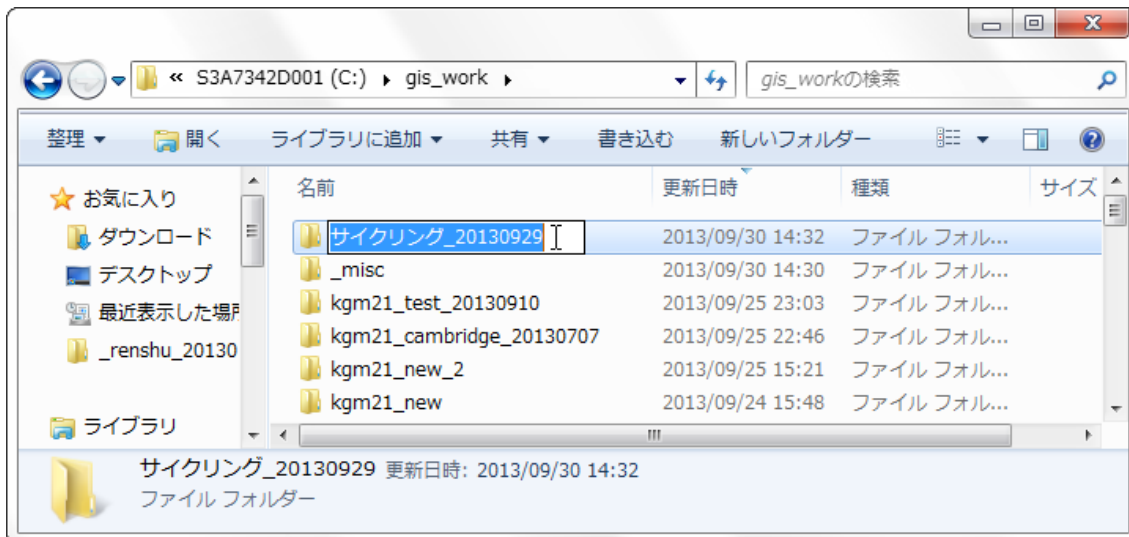
①GPS 受信機、②IC レコーダー、③デジカメのメモリーを接続装置に差し込み、USB ケーブルでパソコンに接続します。



(2) データを読み込むフォルダを作る

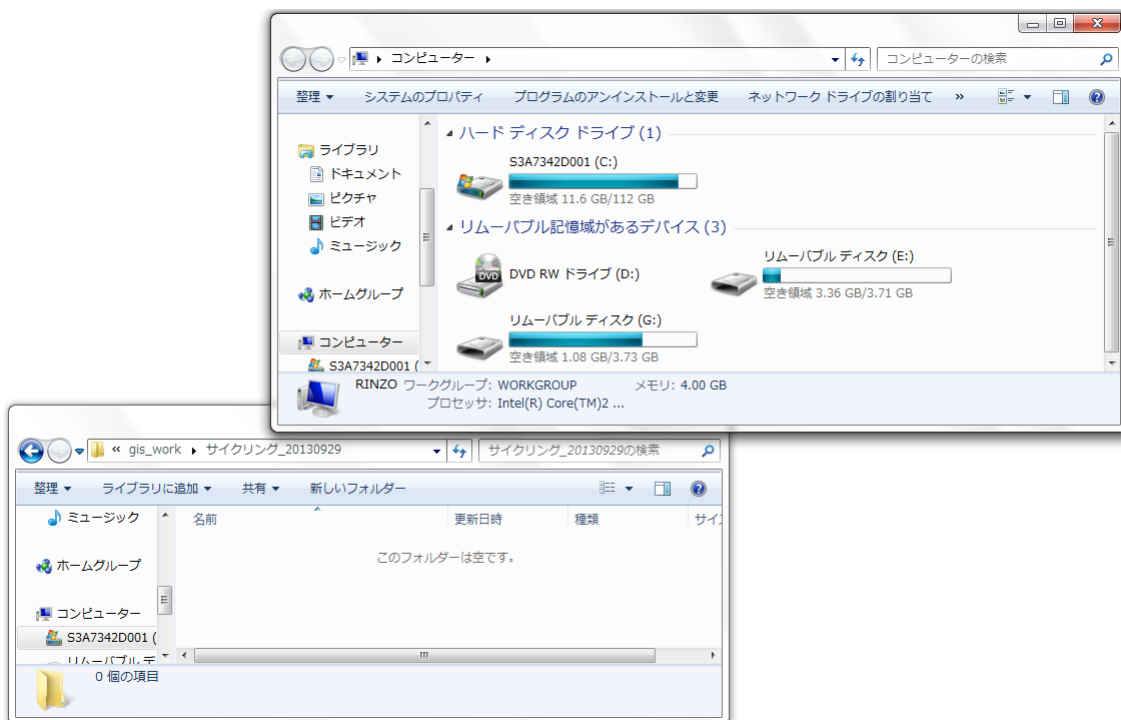
『聞き書きマップ』を使うには、1回の「まちあるき」ごとに1つのフォルダを作って、写真・音声・歩いた経路など、すべてのデータをそのフォルダに入れるのが便利です。

ここでは、例として、「サイクリング_20130929」というフォルダを作ります。

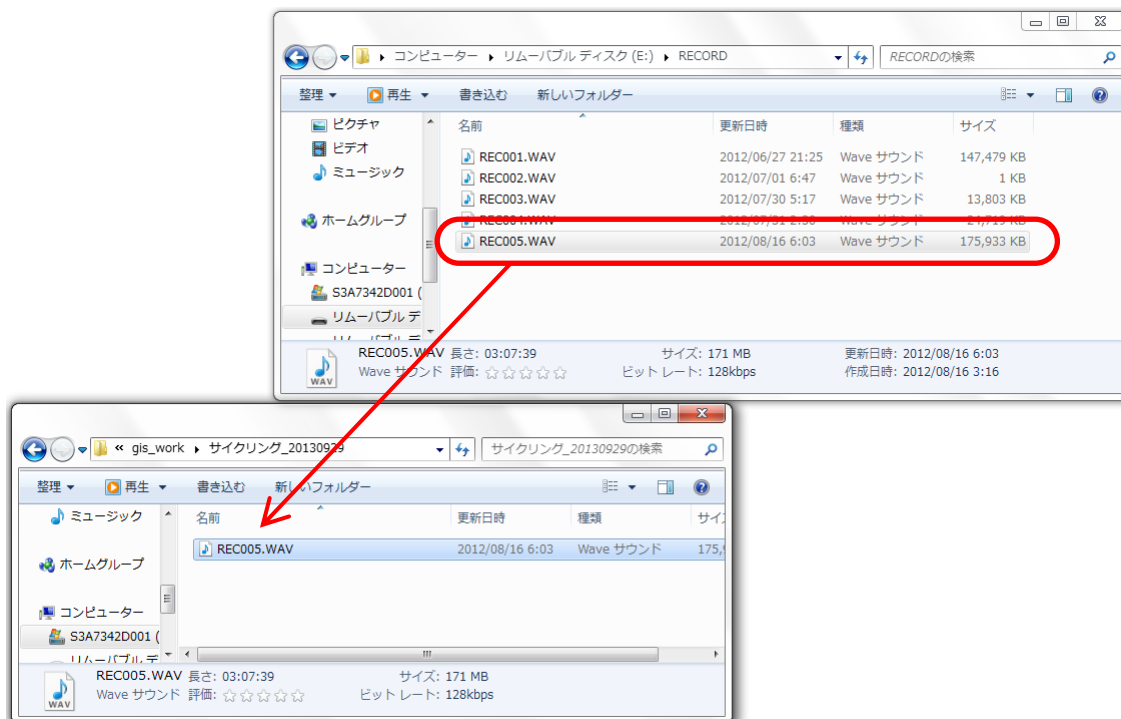


(3) デジカメの写真・IC レコーダーの音声のファイルをコピーする

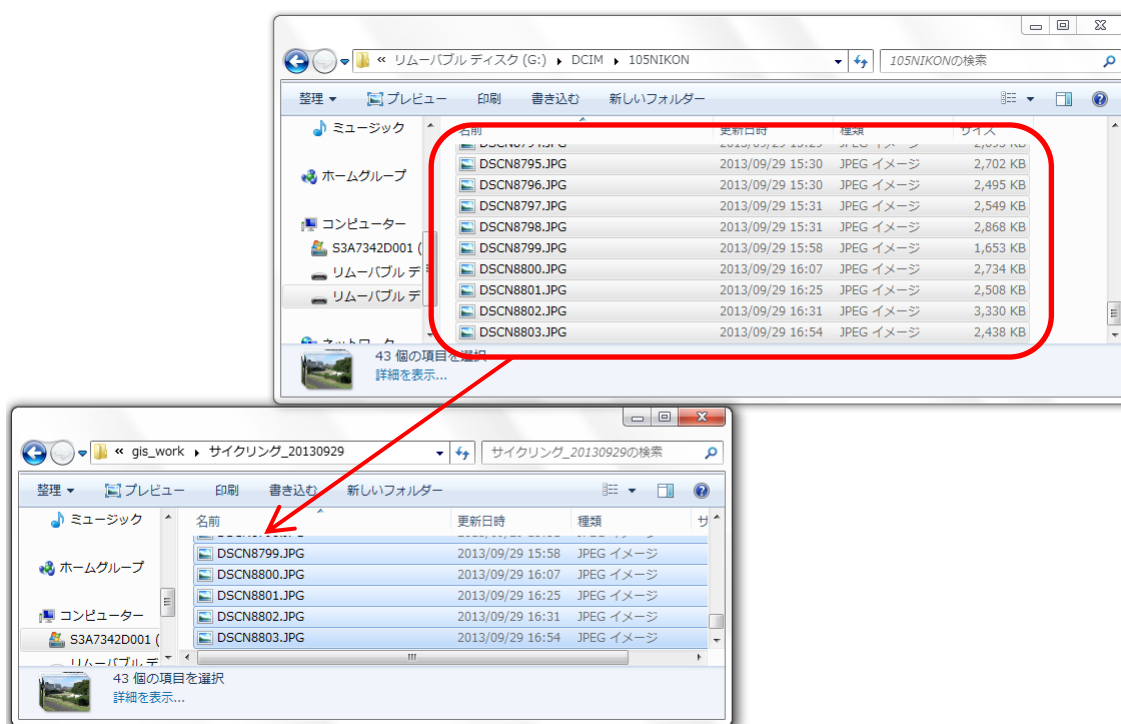
① 「コンピュータ」を開いて、デジカメ写真の入ったメモリーカード（ここでは、「リムーバブルディスク (G:)」) と、音声ファイルの入った IC レコーダー（ここでは、「リムーバブルディスク (E:)」) が表示されていることを確認します。



② まちあるきで録音した音声のデータを、IC レコーダーから「サイクリング_20130929」のフォルダにコピーします。



③ まちあるきで撮影したデジカメ写真のデータを、メモリーカードから「サイクリング_20130929」のフォルダにコピーします。

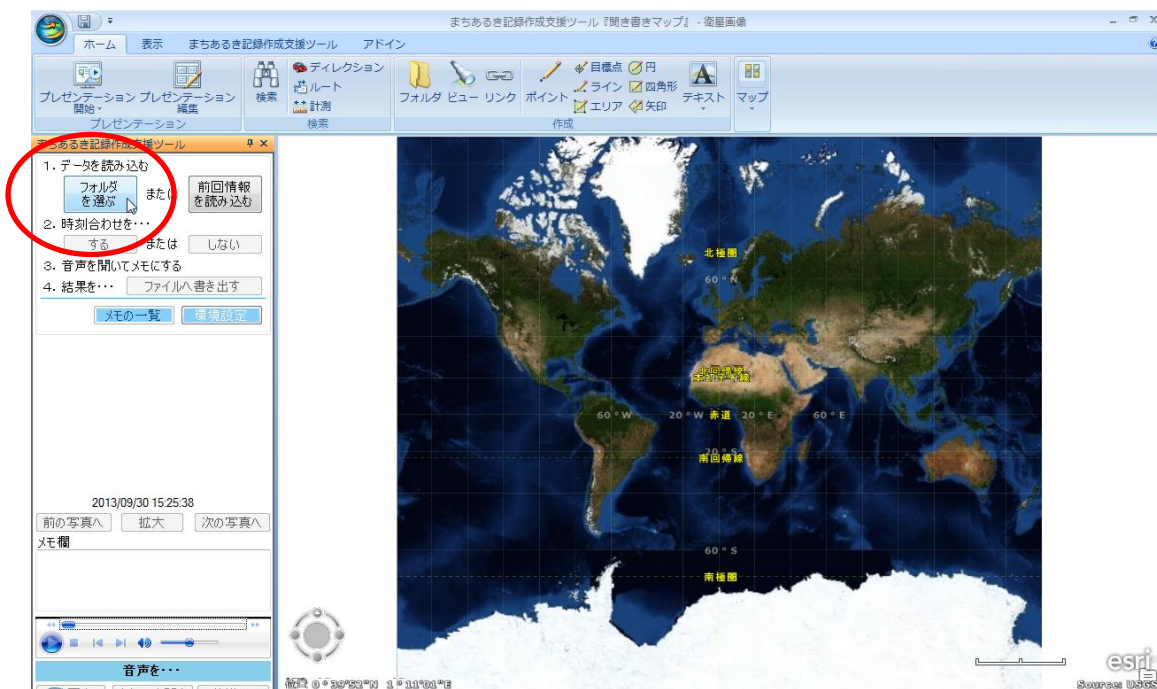


(4) GPS 受信機から、歩いた経路のデータを取り込む

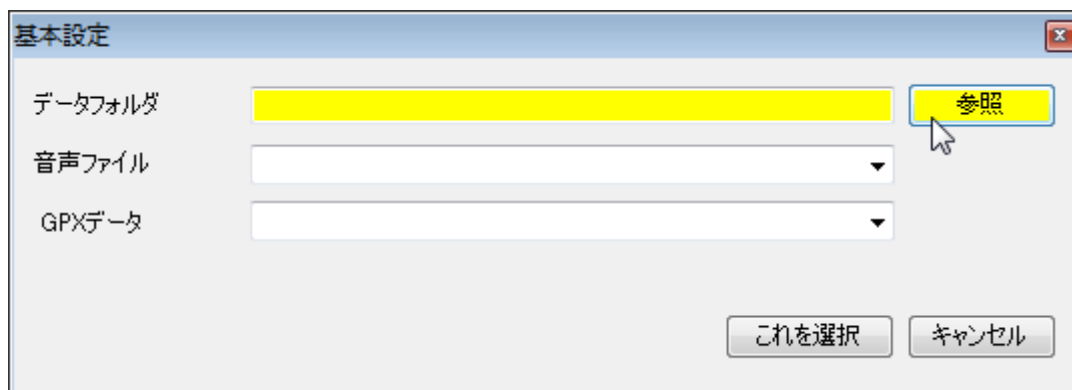
① GPS 受信機の電源をONにして、青色のランプが点灯するのを確認します。



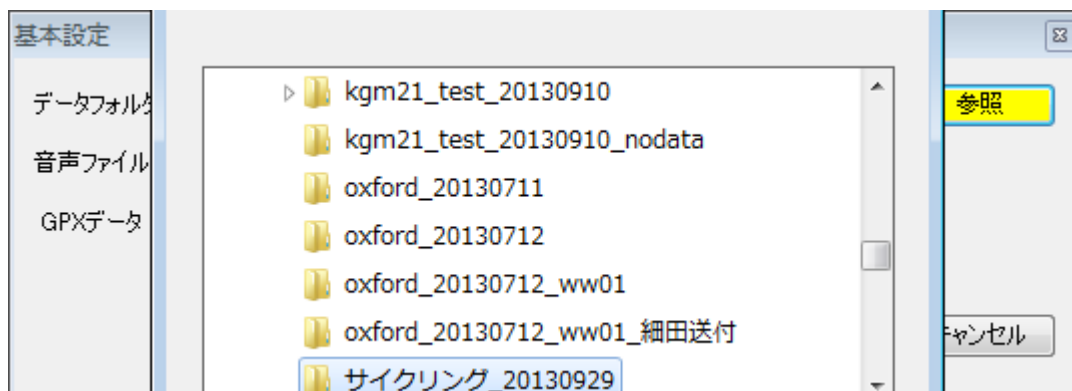
② 『聞き書きマップ』の「フォルダを選ぶ」ボタンをクリックします。



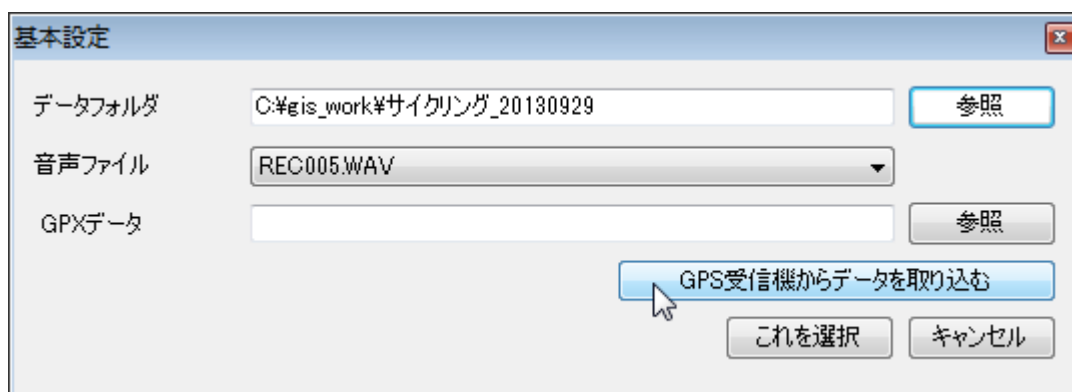
③ このウィンドウが出るので、「参照」ボタンをクリックします。



④ データの読み込み先のフォルダ（ここでは、「サイクリング_20130929」）を選びます。



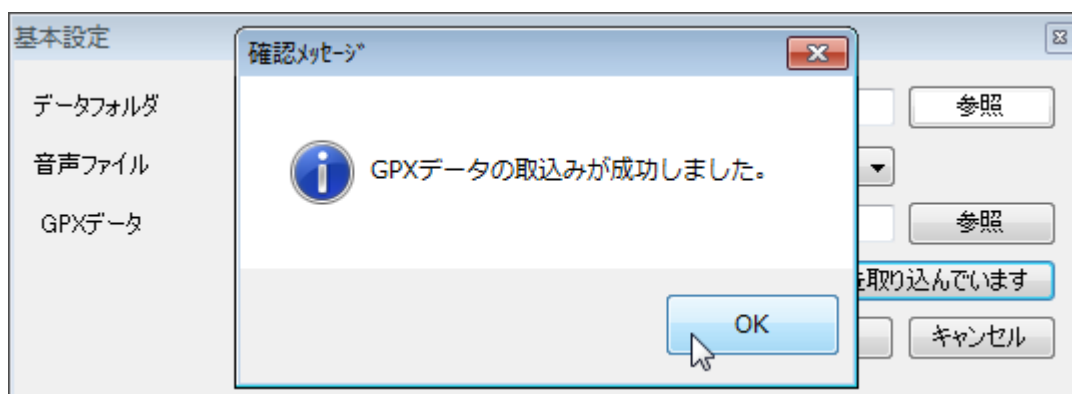
⑤ 選んだフォルダのなかに、歩いた経路のデータがなければ、「GPS 受信機からデータを取り込む」というボタンが表示されるので、このボタンをクリックします。



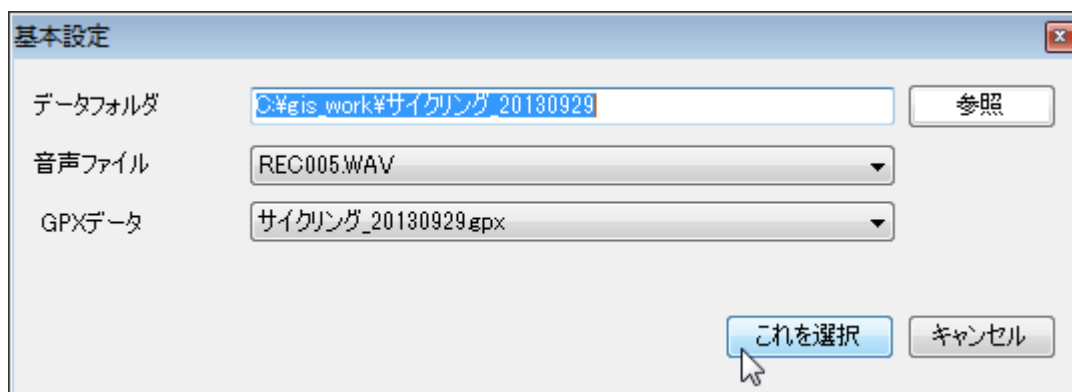
⑥ GPS 受信機からデータを取り込んでいる間は、カーソルがグルグル回る丸い形の表示になるので、しばらくそのまま待ちます。



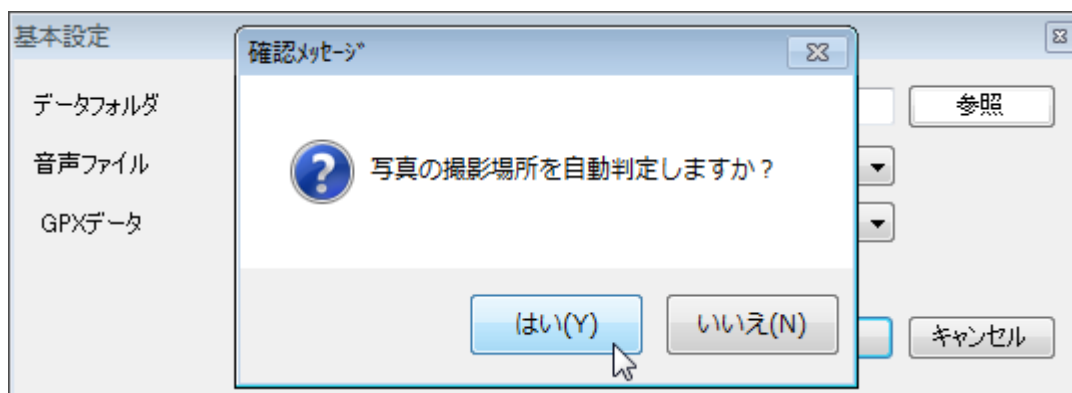
⑦ この表示が出たら、歩いた経路のデータの取り込みは完了です。(データの取り込みにかかる時間は、おおよそ約 30 秒くらいです。)



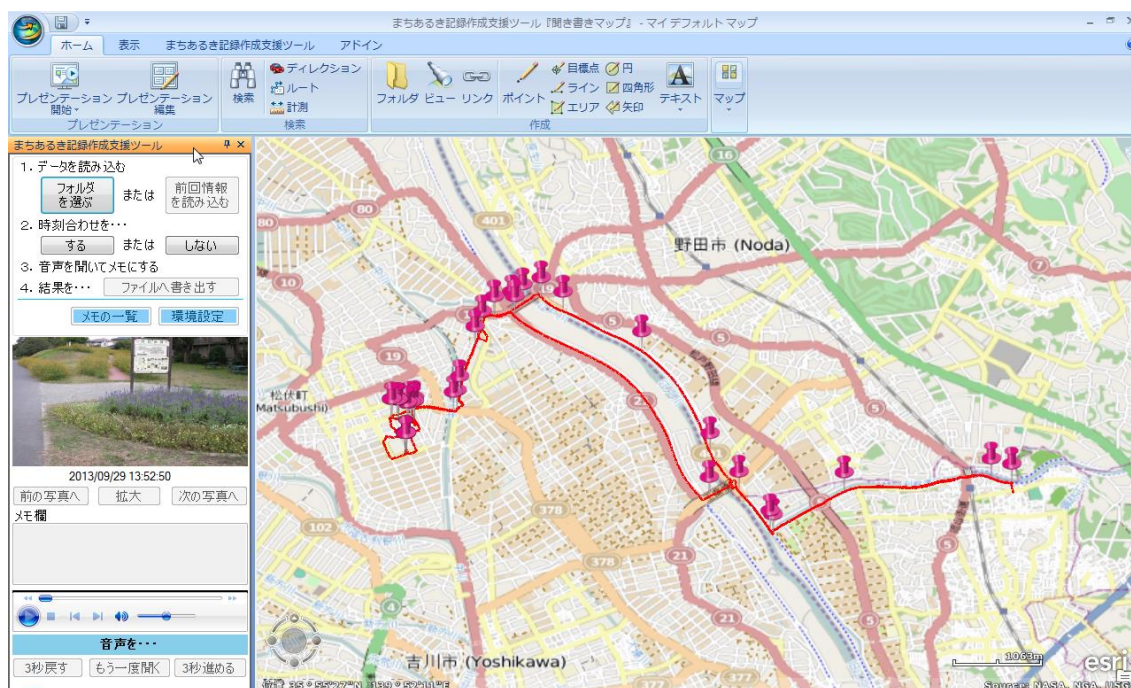
⑧ このウィンドウの「GPX データ」の欄に、「〇〇〇〇.gpx」(ここでは、「サイクリング_20130929.gpx」)という表示が出たのを確認して、「これを選択」ボタンをクリックします。



⑨ 続いて、「写真の撮影場所を自動判定しますか？」という表示が出るので、「はい(Y)」のボタンをクリックします。

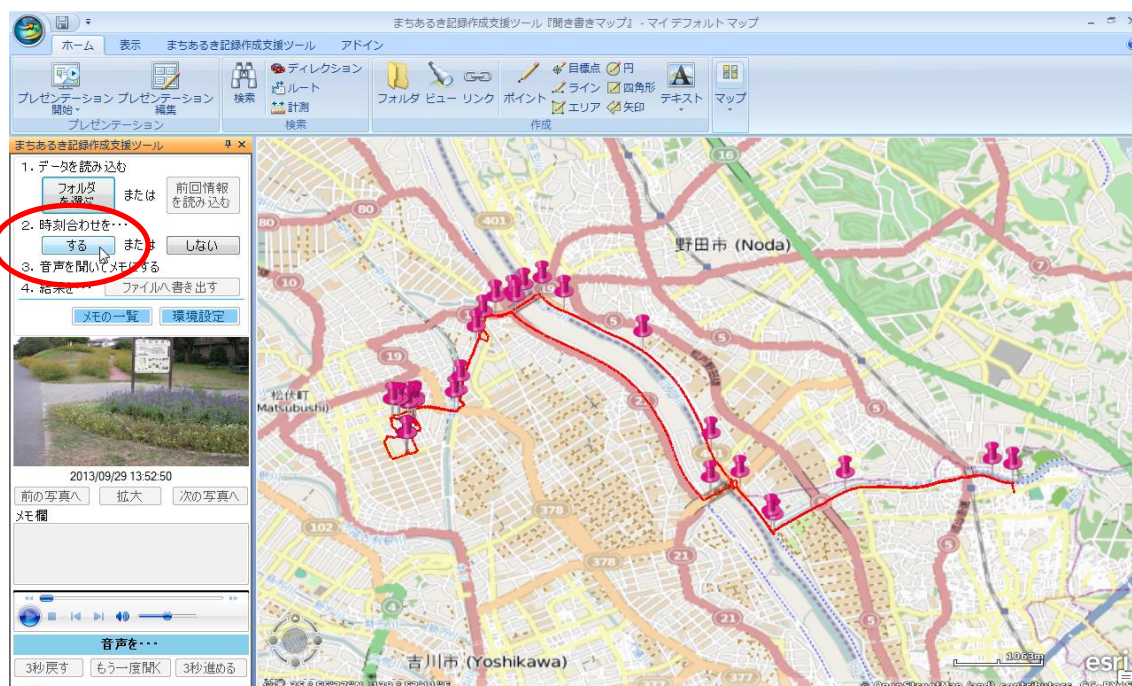


⑩ しばらく待つと、写真々の撮影位置の判定が終わり、このような地図が表示されます。ピンク色のピンが立っているところが、写真を撮影した地点です。

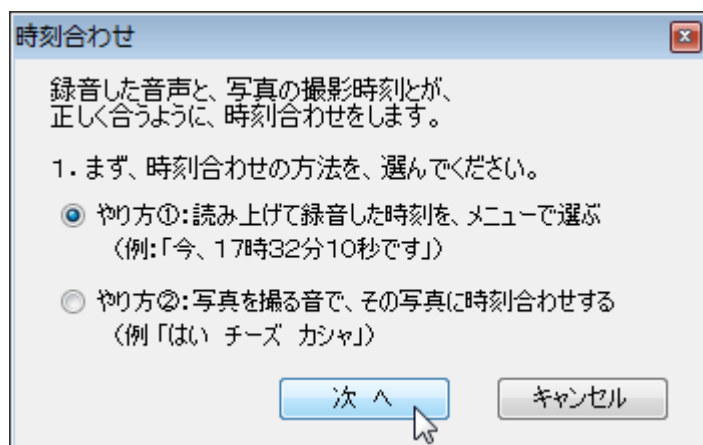


(5) 音声データの時刻合わせをする

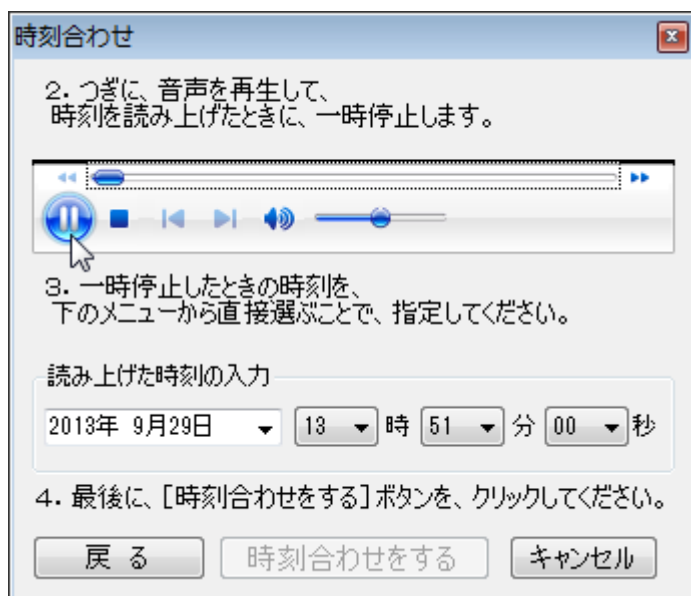
① 時刻合わせを「する」ボタンをクリックします。



② 「時刻合わせ」のウィンドウが出るので、「やり方①」を選び、「次へ」ボタンをクリックします。

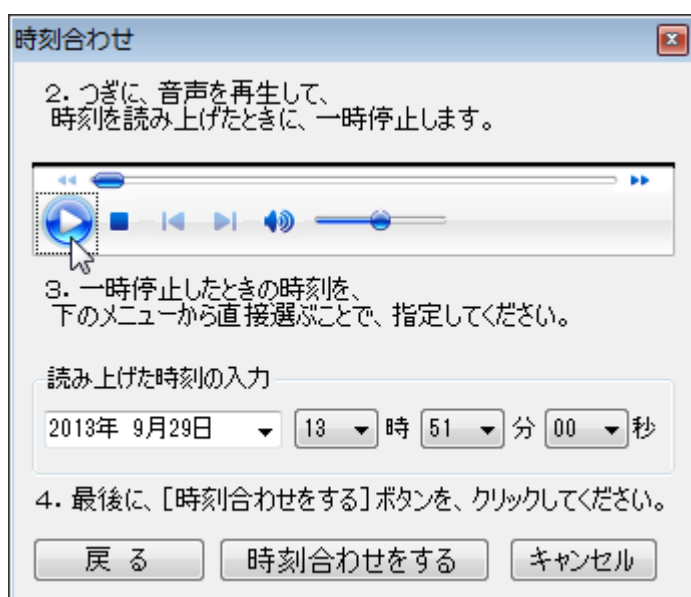


③ このウィンドウが出るので、音声の再生ボタンをクリックして、録音した音声の最初の部分を再生します。

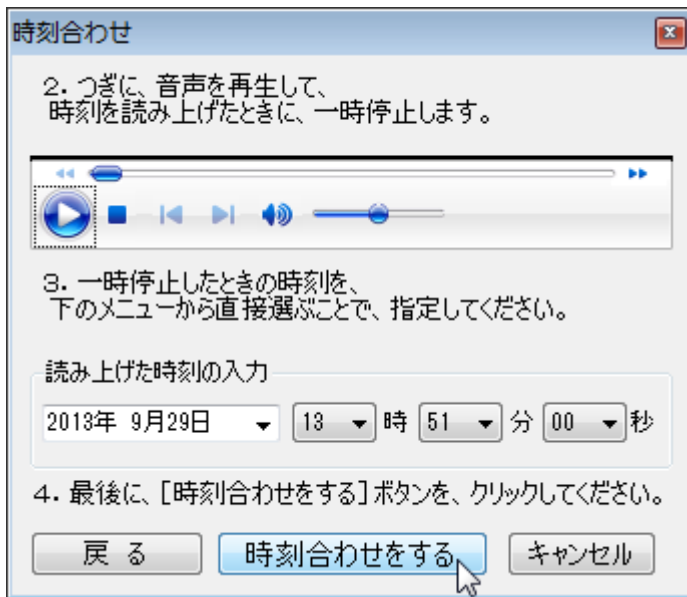


④ 音声の最初の部分に録音した、時刻を読み上げる声（あらかじめ、携帯電話の時報サービス（117番）を録音したものを）を聴き、10秒ごとに読み上げられる時刻のどれかを選んで、「読み上げた時刻の入力」欄に設定します。（ここでは、「2013年9月29日、13時51分00秒」です。）

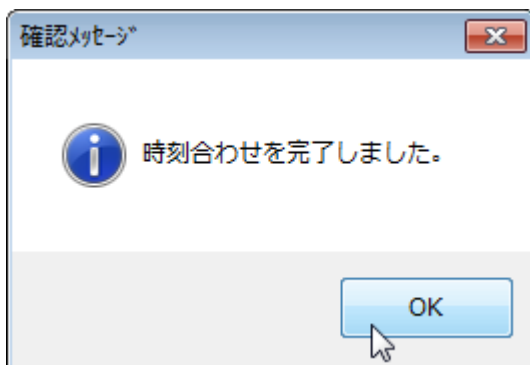
⑤ 録音の最初の部分をもう一度再生し、(4)で設定した時刻の時報（「ポーン」の音）が鳴ったところで、再生ボタンをクリックします（→一時停止状態になります。）



⑥ その状態で、「時刻合わせをする」ボタンをクリックします。



⑦ この表示が出たら、時刻合わせは完了です。



これで、『聞き書きマップ』を使う準備は、すべて完了です。